

# ヒノキ間伐材を活用した原木ナメコ栽培技術

農林総合研究センター（森林・緑化研究所）

キーワード：キノコ類、ヒノキ、ヒノキ原木ナメコ、ヒノキ間伐材

## 1 技術の特徴

ナメコはヒノキからも発生するため、今まで利用されなかった大量のヒノキ間伐材を有効活用することができる。そこで、ヒノキに適した市販ナメコ品種を選定するとともに、ほだ場の最適な気象条件等を明かにした。

## 2 技術内容

ナメコの市販17品種を使い、3年間にわたる調査によりヒノキに適した6品種を明らかにした(図1)。

ナメコは植菌した翌年の秋から3年間発生する。1年目に多く出る品種(大貫N101、加川KM88、河村早生)、1年目、2年目が同程度出る品種(加川KM極早生1、北研N201、大貫N301)、そしてほとんど発生しない品種(キノックス東北N109、大貫N2、加川KM86、北研N325)があったので注意が必要である。

ほだ場は直射日光の当たらない北向き緩斜面で沢地形のスギ造林適地がよい。ナメコ栽培の指標植物としてリョウメンシダ、フユイチゴ、ヒカゲイノコズチを選定した(写真1~3)。これらの植物が自生している場所に、ほだ木を直伏せあるいは直径の半分まで埋設する。3年間の累積発生量が10,000g/ほだ木100kgを超えたほだ場は、発生時期の9月下旬から12月上旬にかけて相対湿度が80%以上の場所であった(図2)。湿度80%未満の場所では半分程度の収量であり、場所選びが最も重要である。

ナメコ栽培には水分の多い原木が適している。ヒノキ原木は乾燥しやすいため必ず伐採直後の生木を使用する。伐採後にいち早く植菌して適地に本伏せする。

## 3 具体的データ

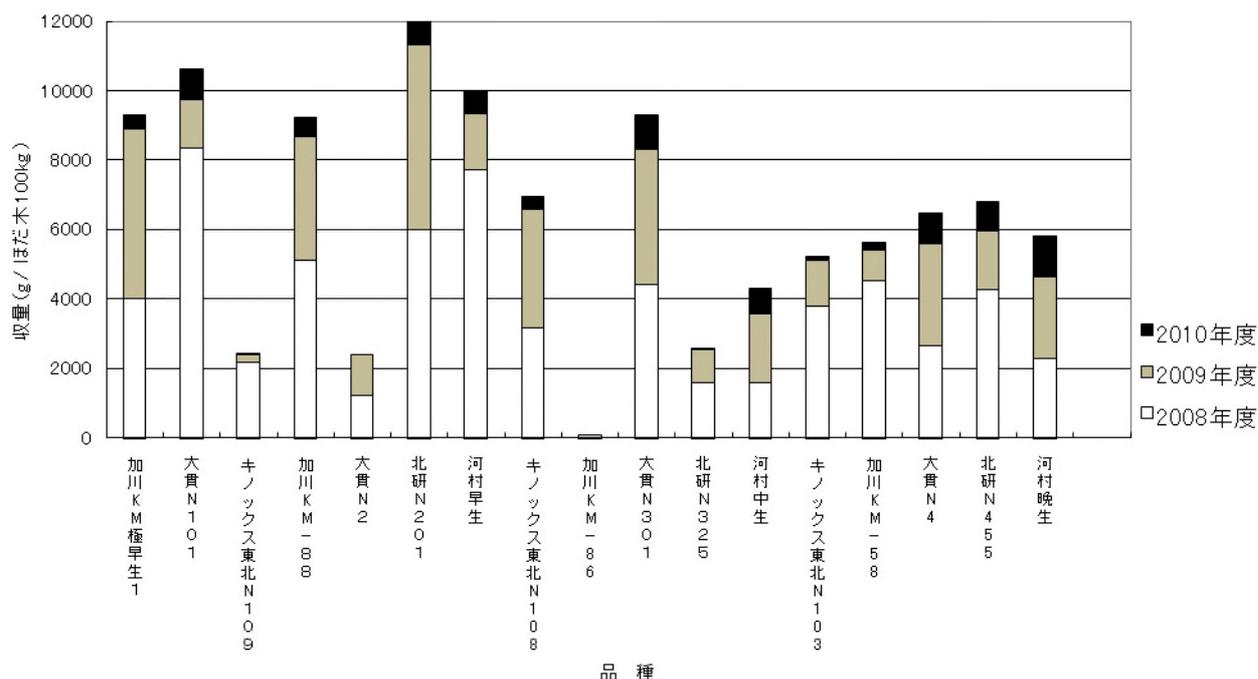


図1 品種毎の3年間の発生量



写真1 リョウメンシダ



写真2 フユイチゴ



写真3 ヒカゲイノコズチ

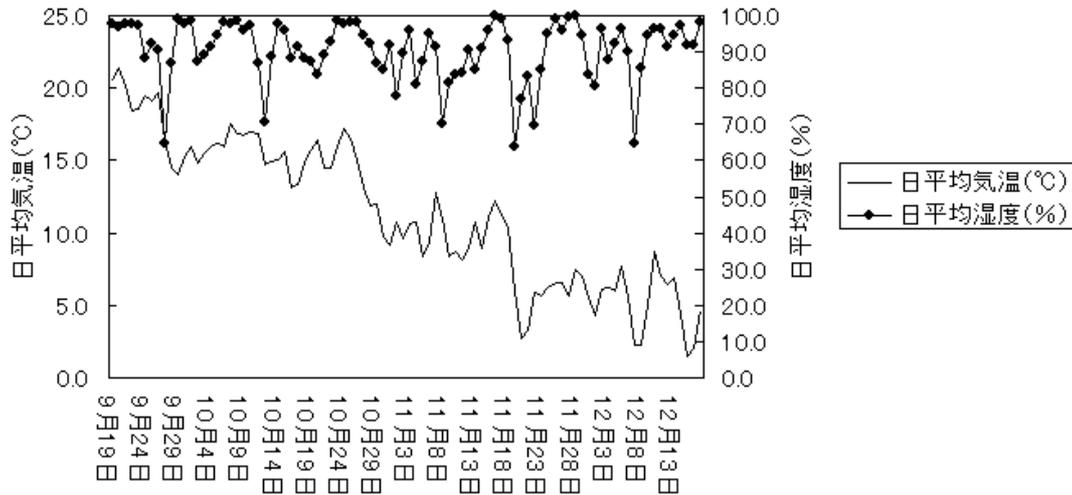


図2 発生に適した相対湿度と気温の関係

#### 4 適用地域

北側緩斜面のスギ造林地のくぼ地形、沢地形で土壌が常に湿潤であること  
適地を示す指標植物が自生している森林が栽培地の条件である

#### 5 普及指導上の留意点

- (1) ヒノキは乾燥しやすい欠点があるため、伐採から植菌までのスケジュールをあらかじめ決めておくように指導する。一般にヒノキ林は土壌がやや乾き気味の土地に立地していることが多いので、ほだ場として使うには向いていない。必ず湿潤な沢地形などに移動する。
- (2) 本伏せした原木は土との間に隙間ができないように設置し、以降絶対に動かさないようにする。
- (3) 露地栽培のため土が付きやすくなるので、発生時期には落ち葉と寒冷紗でしっかりと覆う。

#### 6 試験課題名（試験期間）、担当

関東・中部の中山間地域を活性化する特用林産物の生産技術の開発(2006～2010)、木材利用・林産担当